



第47期報告書
2009.04.01-2010.03.31



Aoi Advertising Promotion Inc.

私たちは映像制作を通じ、すべての人々と喜びを分かち合い、
ひろく経済、情報、文化に貢献する企業をめざします。

Dream & Happiness



2010年4月1日をもって、取締役相談役に高瀬哲、代表取締役社長に藤原次彦が就任いたしました。
株主の皆様には従来同様の力強いご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

(左) 代表取締役社長 藤原 次彦

(右) 取締役相談役 高瀬 哲

ごあいさつ

株主の皆様にはますますご清祥のこととおよろこび申し上げます。

ここに当社第47期の事業の概況につきましてご報告申し上げます。

当期におけるわが国の経済は、輸出に牽引される形での緩やかな回復が続きました。しかしながら、経済活動は金融危機発生以前の水準を取り戻せておらず、国内需要は依然として力強さを欠いております。当広告業界におきましても、こうしたわが国経済の動きを反映し、広告需要が大きく落ち込んだうえ、当社が主力とするテレビコマーシャルの需要は、メディアの新しい展開による広告媒体の多様化等の影響も受け、かつてない厳しい経営環境となりました。

当期の業績につきましては、広告需要減少の影響を受け、連結売上高は大幅減収となりましたが、利益面では、収益力の強化とグループ全体の営業体制強化に取り組んだ結果、営業利益・経常利益ともに増益となり、前期の当期純損失から一転して当期純利益を計上することができました。

とは言え、当社単体の業績は、売上高・営業利益・経常利益ともに前期までの水準を大きく下回っており、経営環境の変化への対処も急がなければなりません。このため、当期の期末配当金につきましては、誠に遺憾ながら、前期より3円減配して1株当たり13円とし、中間配当金と合わせた1株当たりの年間配当金は20円とさせていただきます。

当社は、1963年の創業以来、一貫してテレビコマーシャルを主とした映像制作会社として事業を推進してまいりました。約半世紀に渡ってクオリティーが高く、話題性に溢れた映像作品を生み出してきたノウハウと創造力は、業界でも高い評価を受け続けております。しかしながら、今、広告業界は激変の時代を迎えています。新しいビジネスモデルがいつ、どのような形で誕生するのか、暗中模索の時代がしばらく続くのではないかと考えられます。このような中、当社では本年4月に社長交代を行い、経営体制の刷新・大幅な若返りを図りました。当社グループが今後も着実に成長し、永続的に発展する企業であり続けるため、この新しい経営体制で、激変する経営環境に機敏かつ果敢に立ち向かってゆく所存であります。

私たちは「株主利益の増大を図る」とともに、「取引先、社員、地域社会等すべてのステークホルダーに満足される共益的利益を維持・向上する」ことが最大の使命であると考え、コンプライアンスを重視し、迅速で適切な意思決定と公正で透明性の高い事業運営を行い、すべてのお客さまのニーズに高いレベルで対応することにより、すべての人々と喜びを分かち合い、ひろく経済、情報、文化に貢献する企業を目指します。

株主の皆様には、今後とも一層の力強いご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長

藤原 次彦

株主の皆様へ

〈当社グループの経営成績について〉

かつてない厳しい経営環境の中でありまして、当社は、昨年4月にいち早く「Shape Up Plan」を策定し、制作原価率の抑制、コストの削減等による収益力の強化と、子会社のテコ入れやグループ内人材の適正配置等によるグループ全体の営業体制強化に努めてまいりました。

当社は、広告需要減少の影響が思いのほか大きく、売上高は前連結会計年度実績を大きく下回り、10数年前の水準まで落ち込みましたが、営業利益、経常利益については、こうした施策が奏功したことにより最小限の減少で止めることができました。さらに、当期純利益については、前連結会計年度に貸倒引当金計上の対象となった映画作品に係る売掛金の回収と子会社業績好転による貸倒引当金戻入額の増加、税金費用の減少等もあり、前連結会計年度の当期純損失の計上から一転して当期純利益を計上いたしました。

前年度総じて不振であった子会社の業績は、大きく改善しております。

債務超過に陥り再建を図っている(株)ワサビ（旧(株)メイアンスパイク）と前年度初めて当期純損失を計上した(株)エムズプランニングは、営業努力が実り大幅増収となり、黒字転換しました。

前年度実質初めて当期純損失を計上した(株)葵デジタルクリエイションも、制作原価率の低減や固定費の抑制が奏功し、減収ながら黒字転換しました。

(株)メディア・ガーデンは、グループ内内製強化策や減価償却費負担減等により、売上高はほぼ横這いながら、増益となりました。

(株)デジタル・ガーデンは、増床・人員増による固定費の増加を増収でカバーし、増収増益決算となりました。

創業実質2年度目の(株)スクラッチは、顧客開拓途上にあり、今年度も当期純損失を計上することになりました。

前連結会計年度第3四半期初からグループ入りした(株)シースリーフィルムは、制作管理体制強化策実施等の結果、当期純利益を計上しました。

なお、デジタルサイネージネットワーク開発及び生活行動情報流通事業等を推進するため、昨年4月に立ち上げた(株)タクサシステムズ（持分法適用

会社）に係る持分法投資損失が、増資スケジュールの関係から、当初、当連結会計年度末で想定していた比率以上で算出された数値で、営業外費用に計上されております。

また、上記新規事業の開発費用等の(株)シースリーフィルムから(株)タクサシステムズへの譲渡に係る事業譲渡益と、前述のとおり、前連結会計年度に貸倒引当金計上の対象となった映画作品に係る売掛金の回収による貸倒引当金戻入額が、特別利益に計上されております。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高141億7千1百万円（前連結会計年度比84.5%）、営業利益8億8千3百万円（前連結会計年度比204.3%）、経常利益5億9千5百万円（前連結会計年度比153.1%）、当期純利益4億7千5百万円（前連結会計年度は、当期純損失2億8千9百万円）となりました。

〈当社グループの事業活動について〉

映像制作事業部門

わが国経済の動きを反映して広告需要が大きく落ち込んだことにより、事業の中心であるCM作品の売上高は、95億3千9百万円（前連結会計年度比84.2%）と大幅に減少いたしました。業種別売上状況は、ほとんどの業種で前連結会計年度比減少しましたが、特に「自動車」「医薬・化粧品」が大きく後退しました。

また、映画作品への取組みを引き続き慎重にしたこと等により、映像作品の売上高は、16億5千2百万円（前連結会計年度比66.7%）でした。

この結果、プリント等を加えた当連結会計年度の映像制作事業部門の売上高は、129億4千4百万円（前連結会計年度比82.8%）となりました。

その他の事業部門

前述のとおり、(株)デジタル・ガーデン及び(株)エムズプランニングが増収となったことから、当連結会計年度の映像制作事業部門以外の売上高は、12億2千6百万円（前連結会計年度比108.8%）となりました。

CM特集

TV Commercials

資生堂 エリクシール ホワイト
「母校」



日本コカ・コーラ FANTA
「登場」



許諾：日本コカ・コーラ株式会社

日産自動車 フーガ
「最高の日産」



味の素^{KK} クノール[®] カップスープ
「おいしくなった！」



※著作権保護のため作品画像のWEB掲載はしておりません

〈次期の見通し〉

今後のわが国経済は、海外経済の緩やかな回復を背景とした輸出の増加が引き続き景気を下支えすることで、回復基調が持続するものと思われる。しかしながら、平成22年度予算における公共事業関係費が平成21年度第二次補正後との比較で大幅減となっていること、6月から子ども手当支給開始は家計所得の増加要因となるものの、エコポイント・エコカー補助金の今年度中の終了が予定されていることから、個人消費に反動減が生じると思われること等、政策効果の息切れもあり、国内需要は一進一退の展開となることが予想されます。

広告需要につきましても、昨年度で底は打ったものの、暫くは大きな回復は見込めない状況が続くものと思われる。また、映像制作業界を取り巻く環境も、引き続き広告媒体の多様化による影響を受け、大きく変わりつつあります。新しいビジネスモデルがいつ、どのような形で誕生するのか、暗中模索の時代がしばらく続くのではないかと考えられます。

以上により通期の連結業績の見通しにつきましては、以下を予想しております。

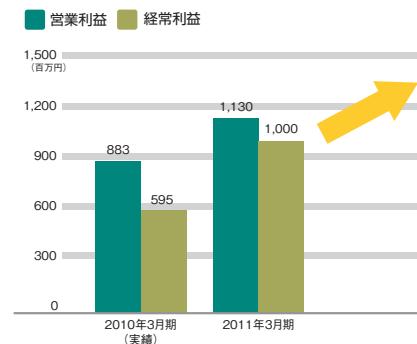
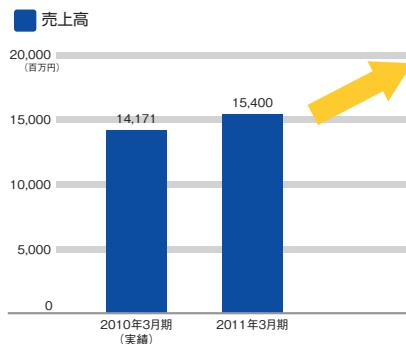
	連 結	前期比
売 上 高	154億円	8.7%増
営 業 利 益	11億3千万円	28.0%増
経 常 利 益	10億円	68.0%増
当 期 純 利 益	5億8千万円	21.9%増

経営目標

当社グループは中期経営目標として、

- 1：グループ総売上高 190億円以上
- 2：1株当たりの当期純利益 50円以上
- 3：株主資本当期純利益率（ROE） 7%以上

を掲げております。



KDDI LISMO
[LISMO! LOVES HIGH SCHOOL]



アサヒ飲料 ワンダ
「ブラックワンダ誕生」



花王 アジエンス
「輝き続けるために」

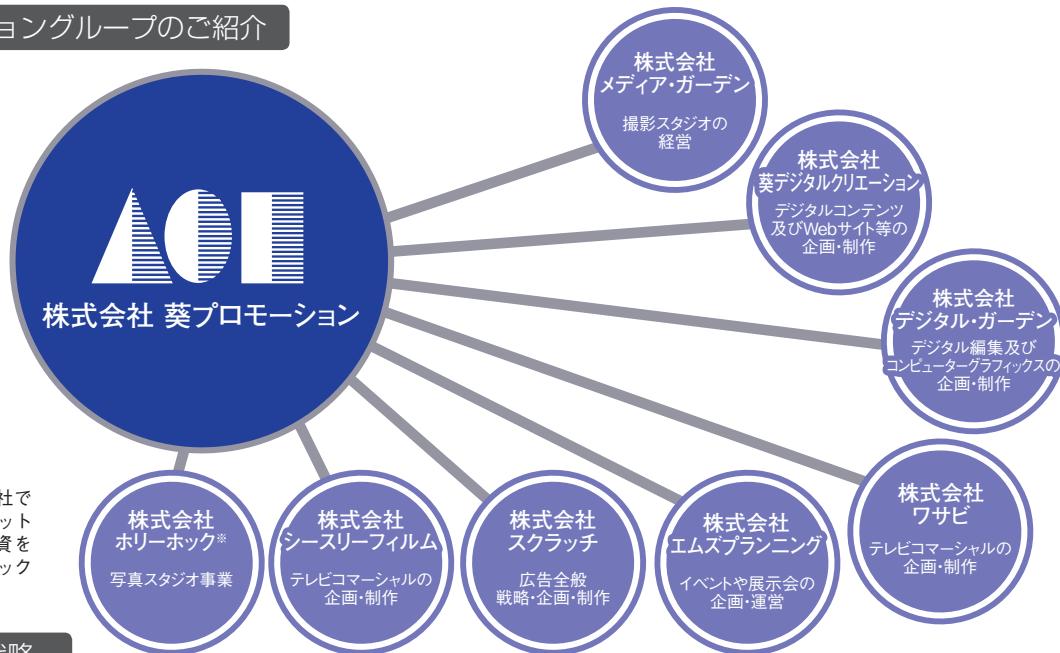


ベネッセコーポレーション 進研ゼミ 高校講座
「橋本さん」



※著作権保護のため作品画像のWEB掲載はしていません

葵プロモーショングループのご紹介



※2010年5月、休眠会社であった株式会社ティーボット(非連結子会社)が増資を行い、株式会社ホリーホックに商号変更しました。

当社の事業戦略

- 1 主力であるテレビCM、WEBコンテンツ等広告映像制作における業界シェア拡大のための、営業力・技術力強化とクロスメディアに対応できる人材・グループ会社の育成。
- 2 これまで培ってきた映像制作に関わるノウハウをフル活用することによるビジネス領域の拡大。
- 3 われわれの財産である創造力を異業種とコラボレーションさせることで生まれる新規ビジネスの開発。

CM特集

TV Commercials

たかの友梨ビューティクリニック 企業
「尻尻エリカ、解禁。」



ネスレ日本 ネスカフェ ゴールドブレンド
「本番」



ハウス食品 メガシャキ
「受験」



ビー・エム・ダブリュー MINI R56 / R55
「MINI meets Sakura "Ear"」



※著作権保護のため作品画像のWEB掲載はしておりません

葵プロモーショングループの事業紹介



株式会社 葵デジタルクリエイション

Digital Contents
モルソン・クアーズ・ジャパン ZIMA
「Kiss A-ZIMA」

株式会社 ワサビ

TVCM

ホームルフーズコーポレーション SPAM
(ポークランチョンミート)
「好きにして」



株式会社 エムズプランニング

Events

イトーキ
イトーキ創立120周年全国代理店社長会議 (10.02.04)
会議・表彰式演出進行

株式会社 シースリーフィルム

TVCM

P&G さらさ
「哲学」



葵プロモーション
×
エムズプランニング



ソニーマーケティング Walkman Play You.
「合唱」

2009年11月、ソニーマーケティング“ウォークマン”のCM撮影イベントが行われ、“3000+1のボーカルユニット”として女優・新垣結衣さんと一般公募された3000人の中高生がMONGOL 800の大ヒット曲「小さな恋のうた」を大合唱した。「歌え、10代。」をコンセプトに、感受性が豊かな10代に“歌うことの力”を訴求。撮影の様子は各メディアで紹介され、CMオンエア後も感動的な作品として話題を呼んだ。

この作品の撮影・制作を葵プロモーション、イベント運営を子会社であるエムズプランニングが担当し、2社初のコラボレーション企画が実現した。

映像作品介绍



Entertainment Contents

制作協力作品 映画
『誰かが私にキスをした』



出演：
堀北真希 松山ケンイチ 手越祐也
アントン・イェルチン ほか
監督・プロデューサー： ハンス・カノーザ
原作・脚本： ガブリエル・ゼヴィン

2010年3月27日 全国公開

制作協力作品 WOWOW ドラマW
『その時までサヨナラ』



出演：
北村一輝 栗山千明 ほか
監督： 初山恭洋
脚本： 旺季志ずか
原作： 山田悠介

2010年2月14日 放送

※著作権保護のため作品画像のWEB掲載はしていません

Aoi Advertising Promotion Inc. 6

連結財務諸表

連結貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

科目	期別	当期 (平成22年3月31日現在)	前期 (平成21年3月31日現在)
(資産の部)			
1 流動資産		8,872,227	9,311,028
固定資産		6,855,419	7,280,139
有形固定資産		4,888,293	4,995,340
無形固定資産		245,827	331,905
投資その他の資産		1,721,298	1,952,893
資産合計		15,727,646	16,591,168
(負債の部)			
2 流動負債		4,182,028	5,192,582
固定負債		2,324,499	2,434,036
負債合計		6,506,528	7,626,618
(純資産の部)			
株主資本		9,028,092	8,878,159
資本金		3,323,900	3,323,900
資本剰余金		3,944,754	3,944,754
利益剰余金		2,688,567	2,488,035
自己株式		△ 929,129	△ 878,530
評価・換算差額等		19,496	△ 1,067
新株予約権		37,437	—
少数株主持分		136,092	87,456
純資産合計		9,221,118	8,964,549
負債及び純資産合計		15,727,646	16,591,168

連結損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

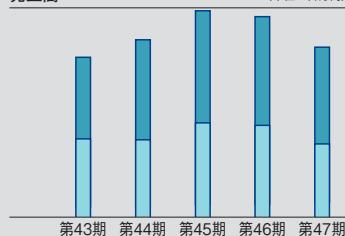
科目	期別	当期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	前期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
売上高		14,171,554	16,765,815
売上原価		11,629,055	14,632,725
3 売上総利益		2,542,498	2,133,089
販売費及び一般管理費		1,659,374	1,700,781
営業利益		883,123	432,308
営業外収益		55,495	85,308
営業外費用		343,230	128,741
経常利益		595,389	388,875
4 特別利益		373,340	44,591
4 特別損失		73,442	381,828
税金等調整前当期純利益		895,287	51,638
法人税、住民税及び事業税		262,193	292,081
法人税等調整額		114,060	61,292
少数株主利益(△損失)		43,333	△ 12,086
当期純利益(△損失)		475,701	△ 289,648

財務ハイライト (連結)

■ 第2四半期 ■ 通期

売上高

(単位：百万円)



期	通期	第2四半期
第43期	13,371	6,544
第44期	14,832	6,466
第45期	17,250	7,884
第46期	16,765	7,684
第47期	14,171	6,148

経常利益(△損失)

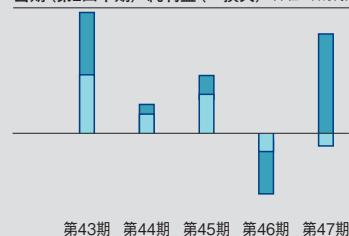
(単位：百万円)



期	通期	第2四半期
第43期	1,002	542
第44期	575	209
第45期	781	455
第46期	388	224
第47期	595	△101

当期(第2四半期) 純利益(△損失)

(単位：百万円)



期	通期	第2四半期
第43期	577	281
第44期	138	92
第45期	277	188
第46期	△289	△85
第47期	475	△59

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：千円）

科目	期別	当期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	前期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
	5 営業活動による キャッシュ・フロー		2,401,359
投資活動による キャッシュ・フロー		△ 302,355	58,667
財務活動による キャッシュ・フロー		△ 1,450,047	△ 321,230
現金及び現金同等物に 係る換算差額		△ 161	△ 3,512
現金及び現金同等物の 増加額		648,794	673,571
現金及び現金同等物の 期首残高		1,584,382	910,811
現金及び現金同等物の 期末残高		2,233,176	1,584,382

POINT 1 流動資産の減少は、主に売上高の大幅減少に伴う売上債権の減少によるものです。

POINT 2 流動負債の減少は、主に短期借入金の返済によるものです。

POINT 3 売上総利益の改善は、制作原価率の低減や退職給付費用等固定費の抑制によるものです。

POINT 4 特別利益・損失の増減は、当期において子会社の事業譲渡益と貸倒引当金戻入額等が特別利益に、また、前期において、役員退職慰労金と投資有価証券評価損等が特別損失に計上されていることによるものです。

POINT 5 営業活動によるキャッシュ・フローの改善は、主に売上債権の減少と利益の増加によるものです。

連結株主資本等変動計算書（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）

（単位：千円）

	株主資本					評価・換算差額等		新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計			
前期末残高	3,323,900	3,944,754	2,488,035	△ 878,530	8,878,159	△ 1,067	△ 1,067	—	87,456	8,964,549
当期変動額										
剰余金の配当	—	—	△ 275,169	—	△ 275,169	—	—	—	—	△ 275,169
当期純利益	—	—	475,701	—	475,701	—	—	—	—	475,701
自己株式の取得	—	—	—	△ 50,598	△ 50,598	—	—	—	—	△ 50,598
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	—	—	—	—	—	20,563	20,563	37,437	48,635	106,636
当期変動額合計	—	—	200,531	△ 50,598	149,933	20,563	20,563	37,437	48,635	256,569
当期末残高	3,323,900	3,944,754	2,688,567	△ 929,129	9,028,092	19,496	19,496	37,437	136,092	9,221,118

単体財務諸表

単体貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

科目	期別	当期	前期
		(平成22年3月31日現在)	(平成21年3月31日現在)
(資産の部)			
流動資産		7,143,667	7,774,850
固定資産		6,616,462	6,560,978
資産合計		13,760,130	14,335,829
(負債の部)			
流動負債		2,888,282	3,643,367
固定負債		2,036,416	2,007,363
負債合計		4,924,699	5,650,730
(純資産の部)			
株主資本		8,778,497	8,686,165
資本金		3,323,900	3,323,900
資本剰余金		3,944,754	3,944,754
資本準備金		830,975	830,975
その他資本剰余金		3,113,779	3,113,779
利益剰余金		2,438,972	2,296,041
その他利益剰余金		2,438,972	2,296,041
別途積立金		2,185,000	2,185,000
繰越利益剰余金		253,972	111,041
自己株式		△ 929,129	△ 878,530
評価・換算差額等		19,496	△ 1,067
その他有価証券評価差額金		19,496	△ 1,067
新株予約権		37,437	—
純資産合計		8,835,431	8,685,098
負債及び純資産合計		13,760,130	14,335,829

単体損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

科目	期別	当期	前期
		(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)	(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)
売上高		9,560,807	13,016,390
売上原価		8,285,074	11,444,267
売上総利益		1,275,733	1,572,122
販売費及び一般管理費		873,619	1,036,668
営業利益		402,113	535,453
営業外収益		250,607	282,006
営業外費用		177,379	187,096
経常利益		475,342	630,363
特別利益		248,680	38,877
特別損失		47,944	469,310
税引前当期純利益		676,077	199,930
法人税・住民税及び事業税		156,387	278,392
法人税等調整額		101,590	89,926
当期純利益(△損失)		418,100	△ 168,388

単体株主資本等変動計算書 (平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本								評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金	利益剰余金合計							
前期末残高	3,323,900	830,975	3,113,779	3,944,754	2,185,000	111,041	2,296,041	△ 878,530	8,686,165	△ 1,067	△ 1,067	—	8,685,098
当期変動額													
剰余金の配当	—	—	—	—	—	△ 275,169	△ 275,169	—	△ 275,169	—	—	—	△ 275,169
当期純利益	—	—	—	—	—	418,100	418,100	—	418,100	—	—	—	418,100
自己株式の取得	—	—	—	—	—	—	—	△ 50,598	△ 50,598	—	—	—	△ 50,598
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20,563	20,563	37,437	58,000
当期変動額合計	—	—	—	—	—	142,931	142,931	△ 50,598	92,332	20,563	20,563	37,437	150,333
当期末残高	3,323,900	830,975	3,113,779	3,944,754	2,185,000	253,972	2,438,972	△ 929,129	8,778,497	19,496	19,496	37,437	8,835,431

会社の概況

(平成22年3月31日現在)

商号	株式会社 葵プロモーション
設立	昭和38年10月25日
資本金	3,323,900千円
従業員	250名(葵グループ418名)
主要な事業内容	テレビコマーシャルの企画及び制作を主に、 映像制作及びこれらに付帯する業務
主要な事業所	本社 東京都品川区 支店 米国カリフォルニア州カラバサス オフィス 新橋(東京都中央区) 赤坂(東京都港区) スタジオ 神奈川県横浜市都筑区 編集スタジオ 東京都渋谷区

取締役及び監査役

(平成22年6月29日現在)

代表取締役社長	藤原 次彦
専務取締役	八重樫 悟
常務取締役	笹貫 善雄
常務取締役	中江 康人
取締役相談役	高瀬 哲
取締役	本多 俊也
取締役	小甲 則夫
取締役	小形 浩隆
取締役	譲原 理
常勤監査役	斉藤 博
監査役	田村 慎太郎
監査役	西本 行孝
監査役	湯佐 富治

(注) 監査役田村慎太郎、監査役西本行孝及び監査役湯佐富治の3氏は、社外監査役であります。

株式の状況

(平成22年3月31日現在)

発行可能株式総数	38,000,000株
発行済株式の総数	11,858,710株
	(自己株式 1,475,930株を除く)
株主数	2,731名

大株主の状況

株主名	持株数	持株比率
	(千株)	(%)
株式会社コスモチャンネル	1,312	11.0
株式会社イマジカ・ロボットホールディングス	1,000	8.4
松本 洋一	575	4.8
原 仁	461	3.8
原文子	328	2.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	309	2.6
葵プロモーション従業員持株会	248	2.0
株式会社オムニバス・ジャパン	220	1.8
株式会社テーオーシー	202	1.7
明治安田生命保険相互会社	170	1.4

(注) 1. 当社は、自己株式を1,475,930株を保有しておりますが、上記大株主からは、除外しております。また、持株比率については、自己株式を控除して算出しております。

2. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の持株数は、全て信託業務に係る株式数であります。

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年の3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月に開催いたします。
- 単元株式数 500株
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
中間配当の支払いを行うときは9月30日といたします。
- 公告方法 電子公告の方法により行います。
公告掲載URL (<http://www.aoi-pro.com/>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします。
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
- 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
フリーダイヤル (0120) 232-711
- 上場証券取引所 東京証券取引所

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式会社 葵プロモーション

〒141-8580 東京都品川区大崎一丁目6番1号

TEL (03)3779-8000 (代表)

www.aoi-pro.com

